

月影

平成十六年七月二十七日発行（第六号）

紫雲山 常林院

お盆はご先祖さまの里帰りの日です。日本では亡き先祖が年に二回訪れると信じられてきました。一つは正月、もう一つはお盆です。とりわけお盆の数日間は、ご先祖さまがその家にとどまってお休みされていますので、手厚くお迎えしたいものです。

お盆のはじまり

ふせつうらぼんきよう

お盆のはじまりは「仏説盂蘭盆経」という經典がもととされていきます。このお経は、お釈迦さまの弟子で神通力第一とされた目連さまのお話です。

ある時、目連さまは神通力を使って亡き母がどうしているか見てみました。哀しい事に、母は餓鬼世界で苦しんでいました。餓鬼世界は食べることも水を飲むことも出来ない苦しみの世界です。母は全身、骨と皮ばかりの姿になっていました。どうしたら母を救えるのか、目連さまはお釈迦さまに助けをもとめました。お釈迦さまは、

「目連よ、お前の母は罪が重い。人に施すことほどこをせず、自分勝手な人間だった。だから餓鬼道におちたのだ。」
と、そして、

「七月十五日は僧侶の修行の終わる日だから、その日に多くの僧侶に母の追善供養ついでんくようをしてもらいなさい。」

と、さとされました。目連さまは、お釈迦さまの教えにしたがい、七月十五日に母の追善供養をして頂きました。すると、餓鬼世界の母は救われました。この話がお盆のはじまりとされています。

実は、目連さまの母は、けっして悪人だったわけではなく、とても貧しく子供も多かったため、自分の子供たちのことで精一杯で、とても他人の子供のことを考えるゆとりがなかっただけなのです。それで餓鬼道におちたのは、少し酷のよう
な気がしますが。

お盆という名前

盆と正月は日本人にとって最大の年中行事です。盆は七月十三日から十六日ないし八月十三日から十六日にかけてご先

祖供養が営われます。私たちが「お盆ぼん」と言っているのは、正式には「盂蘭盆うらぼん」と言います。盂蘭盆とは梵語ぼんご（昔のインドの言葉）のウランバナを音訳したものです。意味は「倒懸とうけん」（さかさまにつるされた苦しみ）です。お盆は苦しんでいるご先祖さまの霊をなぐさめたいという心から生まれた行事であるといえます。そして、お盆は、供養を受けたご先祖さまが満足する日でもあります。さらに供養を受けたご先祖さまは、家族や親類縁者を守るとされています。

先祖様とは

ご先祖さまといっても自分にとって身近に感じるのは父母、祖父母、せいぜい二代か三代までと思います。このご先祖さまの数ですが、さかのぼって計算すると膨大な人数になります。十代前は千人をこし、二十代前には百万人をこし、三代前になるとご先祖の数は十億人以上になります。もし、一度でも、そのつながりが切れることがあったならば、現在の自分は生まれてくることはなかったわけです。この命がいかに希有なものかということをおぼわされます。

常林院の盆行事予定

○墓回向・・・八月六日(金)～八日(日) 午前中

墓前と本堂で回向えこう致します。

○棚経たなぎょう・・・八月六日～十五日。日時は葉書でお知ら

せ致しましたとおりです。変更があればご連絡下さい。

○施餓鬼会せがきえ・・・八月十六日(月) 午後六時半より

組寺(僧4人)で御先祖供養致します。

御回向御希望の方は、当日までにお申

し込み下さい。

※経木きょうぎ (水塔婆みずとうば) は寺のほうに用意致しておりますの

で、お墓参りの際にお寄り下さい。

今年もよろしくお願い致します。